

2025年度 文学部聴講生

講義要項

(東洋史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2025.4 - 2026.3

目 次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	教室番号	単位数	ページ番号
E2201	東洋史学	東洋史概説(1)A(東洋史学)	阿部 幸信	前期	水	5時限	3351	2	1
E2202	東洋史学	東洋史概説(1)A(他専攻)	前島 佳孝	前期	月	2時限	3352	2	4
E2203	東洋史学	東洋史概説(1)B(東洋史学)	鈴木 恵美	後期	木	5時限	3351	2	6
E2204	東洋史学	東洋史概説(1)B(他専攻)	前島 佳孝	後期	月	2時限	3352	2	8
E2205	東洋史学	東洋史概説(2)A	新免 康	前期	火	1時限	3551	2	10
E2206	東洋史学	東洋史概説(2)B	高橋 宏明	後期	火	1時限	3352	2	13
E2207	東洋史学	東洋史学研究法	阿部 幸信	前期	金	5時限	3114	2	16
E2208	東洋史学	史学概論	阿部 幸信	後期	金	5時限	3114	2	19
E2209	東洋史学	東アジア古代史	会田 大輔	後期	火	4時限	3157	2	22
E2210	東洋史学	東アジア近世史	木村 拓	後期	月	1時限	3454	2	25
E2211	東洋史学	東アジア近現代史	藤谷 浩悦	前期	月	1時限	3354	2	27
E2212	東洋史学	東南アジア史	高橋 宏明	前期	火	4時限	3259	2	30
E2213	東洋史学	南アジア史	小倉 智史	後期	金	2時限	3454	2	33
E2214	東洋史学	イスラーム前近代史	末野 孝典	前期	水	2時限	3260	2	36
E2215	東洋史学	イスラーム近現代史	鈴木 恵美	後期	火	3時限	3353	2	39
E2216	東洋史学	朝鮮史	木村 拓	前期	月	1時限	3454	2	42
E2217	東洋史学	中央アジア史	新免 康	後期	火	1時限	3351	2	45
E2218	東洋史学	歴史地理学の方法	市来 弘志	前期	木	2時限	3254	2	48
E2219	東洋史学	生活史・心性史の方法	前田 弘毅	前期	火	2時限	3101	2	50
E2220	東洋史学	グローバルヒストリー入門	末野 孝典	前期	水	1時限	3260	2	53
E2221	東洋史学	東洋美術史B	砂澤 祐子	後期	金	3時限	3259	2	56
E2222	東洋史学	東洋考古学A	深山 絵実梨	前期	木	5時限	3101	2	59
E2223	東洋史学	史料研究	渡部 良子	後期	火	1時限	3101	2	62
E2224	東洋史学	アラビア語(1)A	濱田 聖子	前期	月	2時限	3160	2	65
E2225	東洋史学	アラビア語(1)B	濱田 聖子	後期	月	2時限	3160	2	68
E2226	東洋史学	アラビア語(2)A	松本 隆志	前期	水	4時限	3110	2	71
E2227	東洋史学	アラビア語(2)B	松本 隆志	後期	水	4時限	3110	2	73
E2228	東洋史学	アジア諸言語(1)A	伊澤 敦子	前期	木	2時限	3255	2	75
E2229	東洋史学	アジア諸言語(1)B	伊澤 敦子	後期	木	2時限	3255	2	77
E2230	東洋史学	アジア諸言語(2)A	フロレンティナ、エリカ アユニングティアス	前期	金	4時限	3205	2	79
E2231	東洋史学	アジア諸言語(2)B	フロレンティナ、エリカ アユニングティアス	後期	金	4時限	3205	2	82

科目名： 東洋史概説(1)A(東洋史学)

担当教員： 阿部 幸信

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G101

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:33:0

更新者： AA0826

更新日時： 2024-11-19 19:27:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

一般に「東アジア」と呼ばれる空間を中心としたユーラシア東方地域(島嶼部を含む)の歴史について、通時的かつ包括的に述べます。ユーラシア東方地域は、海陸が入り込んだ複雑な自然環境をもっています。それに応じて、この地に暮らす人々も多様な生業・生活様式を有し、お互いに接触と交流を繰り返してきました。そうしたユーラシア東方地域の歴史展開全般に関する基礎的な知識・考え方を紹介しつつ、ユーラシア東方地域のなかに日本がどう位置づけられるのかについても考えます。本授業をとおして、「いまこの地域の歴史がどのように研究されているのか」「歴史がいまを生き、未来を創るためになぜ必要か」を理解してください。

科目目的

ユーラシア東方地域の歴史の大まかな動きを把握すると同時に、「歴史から考える」ことの重要性についても学びます。

到達目標

1. ユーラシア東方地域の歴史的展開の概略を説明できる。
2. ユーラシア東方地域の歴史的展開が、世界史の中で占める位置について説明できる。
3. ユーラシア東方地域の歴史的展開の中で、日本が占める位置について説明できる。
4. 歴史をふまえて思考することの意義を理解し、説明できる。

授業計画と内容

1. 「ユーラシア東方地域」とは
2. ユーラシア東方地域の先史文化
3. 匈奴帝国・漢王朝と漢文化圏の出現
4. 二重の「南北朝」とユーラシア東方地域の結合
5. 唐帝国とユーラシア東方地域の三国時代
6. 「海の時代」の到来とユーラシア東方地域
7. モンゴル帝国と海陸の一体化
8. ポスト=モンゴル時代のユーラシア東方地域
9. ユーラシア東方地域の「近世」
10. アヘン戦争の衝撃と「世界の一体化」
11. ユーラシア東方地域における近代国家の成立
12. 二つの世界大戦とユーラシア東方地域
13. 現代のユーラシア東方地域
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

[予習]

各授業回の最後に、次の回で扱う内容を示します。それに従って「世界史探究」の教科書(あるいは参考書)の関連箇所を目を通してから、授業に臨んでください。

[復習]

各授業回において紹介される参考文献(「テキスト・参考文献」欄を参照)のうち、毎週任意の1冊(ないし1篇)を目を通し、理解を深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- [テキスト]
高等学校「世界史探究」の教科書を用意してください。教科書会社は問いません。教科書の入手が困難な場合は、高校生向けの参考書でも構いません。
また、必要に応じて、授業中に資料を配付することがあります。
- [参考文献]
各授業回において、内容理解を深めるための参考文献を紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

- 質問は、基本的に授業終了後にその場で受け付けます。それ以外の時間を希望する人は、あらかじめ申し出て、アポイントをとってください。
- manabaの「個別指導コレクション」からご質問いただくこともできます。その場合、回答には少し時間を要する場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(1)A(他専攻)**担当教員： 前島 佳孝**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G101

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:0

更新者：AB5376

更新日時：2025-01-08 19:00:3

授業形式

全ての授業回について、教室での対面形式で実施する。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちをとり、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち前期・東洋史概説Aでは先史時代から5世紀までを取り上げ、主に東アジアの中心を占める中国世界の形成や東・北アジアにおける地域ごとの文化圏の成立について講義する。

科目目的

中国をはじめとして東アジアの影響力が増大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意味があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、古代を中心に東アジアおよびその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ◇東アジア古代の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇古代における「中国」という地域の形成を説明できるようになること。
- ◇社会の変化のありかたを説明できるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 「東洋」と「東洋史学」
3. 伝説と歴史と考古学
4. 古代文明の形成から都市国家連合体へ
5. 殷と周
6. 春秋戦国時代の社会変革
7. 秦漢帝国と統一中国の形成
8. 中国古代の地域社会
9. 外戚と宦官
10. 北アジア遊牧帝国の興衰
11. 王朝交替の様式化
12. 皇帝と宗室
13. 東・北アジアにおける民族の移動
14. 総括・まとめ：東アジア世界の形成

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業に先立ち、下記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所を目を通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容の要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%
平常点	20% 受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。

参考文献: 尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』(東京: 山川出版社, 1998年, ISBN:4634413302)、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』(東京: 山川出版社, 2000年, ISBN:463441340X)、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻(東京: 山川出版社, 1996年～)。また、授業中にも適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(1)B(東洋史学)**担当教員： 鈴木 恵美**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：水5

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G102

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:0

更新者：AA2229

更新日時：2025-01-11 17:21:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イスラームが誕生した7世紀以降の西アジア(中東)地域の歴史の概説を学ぶ。この地域は古代文明から積み重なる歴史を持ち、東西そして南北の交流が盛んな、様々な民族、宗教が共生する多様性に満ちた地域である。また、十字軍とモンゴルという東西からの侵略、様々な王朝の栄枯盛衰など、ダイナミズムに満ちている。この授業では、西洋や東洋とは全く異なる西アジア地域におけるイスラーム史の魅力を知ること、世界史を学ぶことの楽しさを知る。授業は、イスラーム(第1回と第2回)、概説(第3回から第6回)、テーマごとの各論(第7回から第13回)という第三部構成で実施する。

科目目的

複雑で難しいと思われがちな西アジア地域の歴史を学ぶことの面白さを知ること。またこの地域の歴史を、世界史全体のなかで理解すること。

到達目標

イスラーム史を学ぶことで、他の地域との違いと共通点を理解すること。授業で学ぶ歴史的知識と、現代の国際社会を結び付けてとらえること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、イスラーム史の見方
- 第2回 イスラームの誕生と支配地域の拡大
- 第3回 アラブによる支配
- 第4回 非アラブによる支配
- 第5回 十字軍とモンゴル襲来
- 第6回 近世イスラーム国家
- 第7回 イスラーム法による統治と正当性
- 第8回 統治機構と土地制度
- 第9回 ワクフとイスラーム都市
- 第10回 交易路の拡大と変化
- 第11回 オスマン朝の都市文化
- 第12回 西アジア地域における食の文化史
- 第13回 イスラーム史のなかのユダヤ人
- 第14回 イスラーム史の総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

必ず授業の復習をすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	イスラーム文明が歴史的にどのように展開してきたか、その理解度を評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	質問やコメントペーパーの提出など、授業に対する積極性。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは無し。参考文献は、必要な時には講義のなかで紹介する。
資料を準備する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(1)B(他専攻)

担当教員： 前島 佳孝

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G102

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:33:0

更新者： AB5376

更新日時： 2025-01-08 19:02:2

授業形式

全ての授業回について、教室での対面形式で実施する。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちをとり、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち後期・東洋史概説Bでは5世紀以降を取り上げ、アジアの再構成、及び国際関係を中心に講義する。

科目目的

中国をはじめとして東アジアの影響力が増大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意味があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、中世以降の東アジア及びその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ◇東アジア中世以降の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇中国と周辺地域との関わりについて説明できるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 暦の話(古代～現代): 太陰太陽暦とイスラム暦
3. 分裂時期中国の国際関係
4. 胡漢の融合
5. 隋唐世界帝国とその淵源
6. 東アジア都城通史(古代～現代)
7. ソグド人の活動
8. 日唐関係史の一齣
9. 唐宋変革
10. 科挙通史(6～20世紀)
11. モンゴル帝国とその末裔(12～20世紀)
12. 漢地と藩部
13. トルキスタンの成立と2つのウイグル(8～20世紀)
14. 総括・まとめ: 東アジア世界の変容と周辺地域との関係

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業に先だち、下記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所を目を通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容を要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%
平常点	20% 受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。

参考文献: 尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』(東京: 山川出版社, 1998年, ISBN:4634413302)、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』(東京: 山川出版社, 2000年, ISBN:463441340X)、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻(東京: 山川出版社, 1996年〜)。また、授業中にも適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(2)A

担当教員： 新免 康

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G103

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:33:0

更新者： AA0014

更新日時： 2025-01-18 22:10:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の基本的な流れを扱います。本授業で扱う中央ユーラシアの範囲については、西はヴォルガ・ウラル地域、東はモンゴル高原、北は南シベリア、南はチベット、西南はイラン北部、という領域を設定します。本授業において特に重視する具体的な事象としては、民族の移動、遊牧民とオアシスの定住民の関係、宗教や言語に関連する文化交流、いわゆる「シルクロード」を通じた交易活動があり、これらの諸事象に注目したうえで、中央ユーラシアにおいて活動した、あるいは現代においてもなお活動を続けている諸民族の政治、社会、文化の変容についても理解を深めていきます。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群における必修科目として位置づけられており、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で示されている「幅広い教養」を身に付け、また「専門的学識」を修得することを目的としています。この科目での学習を通じて、古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の流れについて、基本的な知識を修得するとともに、ユーラシアにおける当該地域の位置づけや歴史的役割を視野に置きつつ、その歴史展開のあり方と具体的な諸事象を理解するための視点を養います。また、これらの知識と視点を修得することを通じて、現代の中央ユーラシアにおける諸民族が置かれた具体的な状況(政治、経済、社会、文化など)に関する理解を深めます。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・中央ユーラシアの歴史の基本的な流れについて、他者に説明できるようになること。
- ・古代から現代までの中央ユーラシアにおける歴史の状況を、各時期ごとに具体的な事象を挙げて、他者に説明できるようになること。
- ・歴史的な視点および知識をもとに、現代の中央ユーラシアの状況について、広い視野を持って理解できるようになること。

授業計画と内容

基本的に講義形式で授業を行います。

- 第1回 ガイダンス : 中央ユーラシアの地域的特徴
- 第2回 中央ユーラシア史の展開: 草原とオアシス、シルクロード
- 第3回 スキタイと匈奴: 遊牧民とその政権
- 第4回 テュルクの展開: テュルク系遊牧諸部族の活動および西方への移動
- 第5回 ソグディアナ地域: ソグド人の住む地域と彼らの商業活動
- 第6回 タリム盆地周縁オアシス地域: オアシスの諸国と周辺勢力
- 第7回 イスラーム化: 中央アジアのイスラーム受容と社会・文化の変化
- 第8回 テュルク化: テュルク系遊牧民の定住化とオアシス地域のテュルク化
- 第9回 モンゴル帝国: チンギス・ハーンとその後裔たち
- 第10回 ティムール帝国: ティムールとその後裔たち
- 第11回 清朝の進出と統治: モンゴル、チベット、新疆
- 第12回 ロシア帝国の進出と統治: 中央アジア
- 第13回 近現代の中央ユーラシア: ナショナリズム、コミュニズム
- 第14回 総括・まとめ: 中央ユーラシアの歴史と現代

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・特定のテキストは使用しませんが、授業中に紹介する参考文献に目を通すことを推奨します。
- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出すので、400字程度の小レポートを提出してください。小レポートの回収は、manabaの小レポート機能によって行なう予定です。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	学期末の課題レポート(1800字以上2200字以内)の内容について評価します。設定された文字数の中で、具体的な事象を他者に説明できることを重視するので、1800字を下回る場合、また2200字を上回る場合も同様に減点します。
平常点	70%	授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ・毎回の授業において、紙の受講カードを配布し、その提出をもって出席を確認する予定です。
- ・原則として、前回小課題の講評を行う時間帯の後、受講カードを配布します。
- ・配布以後に入室した履修者には受講カードを配布しません。
※交通機関のトラブルで遅刻し、遅延証明書を提出した場合は、この限りではありません。
- ・各授業ごとに出席を確認できた学生の提出した小レポートを評価の対象とします。正当な理由なく欠席した場合は、その欠席した回の小レポートを提出することはできません。
- ・小レポートを正当な理由なく5回以上提出しなかった者、学期末の課題レポートを提出しなかった者は評価の対象とせず、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出します。課題に対して提出された小レポートの内容に応じて、講評と解説を行います。
- ・学期末の課題レポートの内容に応じて、講評と解説を掲示します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
テキストは使用しません。各回の授業内容に関する資料を提示します。

<参考文献>
参考文献については授業時にも紹介しますが、本授業における主な参考文献としては以下のものがあります。
・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年(新版世界万国史4)ISBN:4-634-41340-X

- ・小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可、堀川徹編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年 ISBN:4-582-12636-7
- ・小松久男、荒川正晴、岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年 ISBN:978-4-634-64087-0
- ・野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年 ISBN:978-4-634-67249-9

オフィスアワー

その他特記事項

毎回の授業において出す課題の小レポートについて、学生の皆さんの負担に関わる事情を考慮する必要性が生じた場合は、課題字数の調整などの対応を行ないます。

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(2)B**担当教員： 高橋 宏明**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G104

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:0

更新者：AA1729

更新日時：2024-12-11 10:26:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史的展開に焦点をあてつつ、国家史の枠組みを越えた東西交流の歴史と物質文明、内陸地域との交易ネットワークの形成と発展、海域史の特徴等について学習します。

科目目的

本科目の学習を通じて、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカ東岸にかけての海域世界の歴史と文化に対する理解を深めると同時に、当該地域の歴史、社会、文化についての基礎的な知識や幅広い教養を修得することを目的としています。

到達目標

本科目では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史や文化について理解し、東西交流の歴史的な意味や意義、海域世界の交流史や宗教の展開などについて、他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 はじめにー海域世界と東西交流の歴史ー
- 第2回 紀元前後の「海のシルクロード」
- 第3回 古代東南アジアにおける「港市」の成立と国家形成
- 第4回 8～9世紀におけるアジア海上交易ネットワークの発展
- 第5回 10～12世紀のイスラーム世界の拡大
- 第6回 イスラーム=ネットワークの形成と海上交易の活性化
- 第7回 明の国際秩序とアジア海域ー鄭和の遠征、銀の流通ー
- 第8回 15世紀のアジア交易ーインド洋交易、アラビア商人、マラッカ王国ー
- 第9回 大航海時代の開始①インド洋貿易ネットワークの発展
- 第10回 大航海時代の開始②ヨーロッパ人のアジア進出
- 第11回 16世紀近代世界システムの成立①ヨーロッパ人の世界「進出」
- 第12回 16世紀近代世界システムの成立②アジア地域とヨーロッパ人の活動
- 第13回 17～18世紀の東南アジア世界への中国人の進出
- 第14回 まとめと総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 40% | 海域世界の歴史と文化についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 30% | レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレ |

ポート作成できるかどうかを評価します。

平常点 30% リアクションペーパーの内容、受講態度(意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度・姿勢等)を基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身の無いものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関(国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他)との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会(ICC)の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同文書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

テキスト・参考文献等

「テキスト」は、特に使用しません。毎回、授業の際に関連資料を配布します。

「参考文献」として、以下をあげておきますので、適宜参照してください。
・青木康征『海の道と東西の出会い』山川出版社(世界史リブレット)、1998年。
・桐山昇・栗原浩英・根本敬『東南アジアの歴史—人・物・文化の交流史—』有斐閣、2003年。
・羽田正編『東アジア海域に漕ぎだす1—海からみた歴史—』東京大学出版会、2013年。
・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史学研究法**担当教員： 阿部 幸信**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 金5

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G107

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:0

更新者：AA0826

更新日時：2024-11-19 19:33:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

東洋史学ならびに東洋史学の背景にある近世以降の歴史学全般について、その研究史と展開過程、ならびに方法論を学びます。東洋史学は近代日本が生みだした、独特な学問分野です。この授業では、東洋史学という学問について深く知るために、(1)「東洋」概念の発生とその研究史、(2)東洋史学の誕生とそれが「世界史」研究の中で占める位置、(3)東洋史学を含む歴史学の学問としての性質、という3つの観点から議論を展開していきます。半年間の履修をとおして、「東洋史学」「歴史学」という学問のイメージをつかむと同時に、その研究史と時代背景との密接な関係について思いを致してください。その果てに、東洋史学を学ぶ意義がみえてくるはずです。

科目目的

東洋史学・歴史学を学ぶうえで必要な基礎的知識を身につけることを主たる目的とします。ここでいう「基礎的知識」には、東洋史学・歴史学に関するものだけでなく、日本史学・西洋史学、あるいは人文地理学・文化人類学・比較文明学など、隣接する諸領域についての知識を含みます。従って、東洋史学・歴史学を専攻しない方に対しては、「関連する諸領域の中において、東洋史学・歴史学がどのような位置を占めるか」についての知識を提供します。

到達目標

1. 「東洋」という概念の成立と展開について、時代背景と結びつけて説明できる。
2. 歴史学の学問としての性質について説明できる。
3. 東洋史学が世界史研究の中で占めてきた位置について、時代背景と結びつけて説明できる。
4. 東洋史学の今日的意義について、その学問としての性質や研究史をふまえながら、見解を提示できる。

授業計画と内容

1. 「東洋」はどこに？
2. 「オリエント」「東洋」観の変容
3. オリエンタル・スタディーズ
4. 東洋史学の成立
5. 1920～40年代の「東洋史」「アジア史」論
6. 「歴史的世界」論とその背景
7. 人文地理学とその周縁
8. 地政学からみた世界史
9. 文化・文明の多様性と世界史
10. 近代歴史学と「新しい歴史学」
11. 『地中海』と「世界システム」論
12. グローバル・ヒストリー
13. 小結——「史学概論」にむけて
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

[予習]

各授業回の前に、指定された参考文献をに目を通し、内容の概略を把握しておいてください。難解な本もありますが、すべて理解できなくても構いません。

[復習]

授業中に多数の関連文献が示されます。毎回そのうち最低1冊(ないし1篇)を読んで、授業内容に対する理解を深めてください。また、授

業中に課題が指示された場合には、必ず取り組んでください。

この授業は情報量が膨大なため、復習を怠るとすぐについていけなくなります。決しておろそかにしないでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

[テキスト]

固定したテキストは用いません。必要に応じて、授業中に資料を配付することがあります。

[参考文献]

下記は予習のためのもので、これ以外の関連文献は授業中に提示します。冒頭の数字は授業の回数に対応しています。

1. 仁井田陸『新装版 東洋とは何か』(東京大学出版会UPコレクション、2013年、ISBN:978-4-13-006507-8)
2. E. サイード『オリエンタリズム』上・下(平凡社ライブラリー、1993年、ISBN:978-4-582-76011-8、978-4-582-76012-5)
3. 高田時雄(編著)『東洋学の系譜 欧米編』(大修館書店、1996年、ISBN:978-4-469-23130-4)
4. 金子民雄『西域 探検の世紀』(岩波新書、2002年、ISBN:978-4-00-430776-1)
5. 永原慶二『20世紀日本の歴史学』(吉川弘文館、ISBN:978-4-642-07797-2)
6. K. マルクス『経済学批判』(岩波文庫、1956年、ISBN:978-4-00-341250-3)
7. L. フェーヴル『大地と人類の進化』上・下(岩波文庫、1971・1972年、ISBN:978-4-00-334511-5、978-4-00-334512-2)
8. 梅棹忠夫『文明の生態史観ほか』(中公クラシックス、2002年、ISBN:978-4-12-160041-7)

9. S. ハンチントン『文明の衝突と21世紀の日本』(集英社新書、2000年、978-4-08-720015-7)
10. J. ホイジンガ『中世の秋』・II(中公クラシックス、2001年、ISBN:978-4-12-160000-4、978-4-12-160006-6)
11. E. ウォーラステイン『近代世界システム』1・2(岩波モダンクラシックス、2006年、ISBN:978-4-00-027143-1、978-4-00-027144-8)
※新版もありますが、この版のほうがコンパクトです。内容は基本的に同じです。
12. J. ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』上・下(草思社文庫、2012年、ISBN:978-4-7942-1878-0、978-4-7942-1879-7)
13. E. H. ノーマン『クリオの顔——歴史随想集』(岩波文庫、1986年、ISBN:978-4-00-334371-5)

オフィスアワー

その他特記事項

質問は、基本的に授業終了後にその場で受け付けます。それ以外の時間を希望する人は、あらかじめ申し出て、アポイントをとってください。

manabaの「個別指導コレクション」からご質問いただくこともできます。その場合、回答には少し時間を要する場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

参考URL

備考

科目名： 史学概論

担当教員： 阿部 幸信

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 金5

配当年次： 2年次配当

科目ナンバー： LE-HT2-G108

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:33:0

更新者： AA0826

更新日時： 2024-11-19 19:37:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史とは何か。この問いは、歴史学という学問に固有な特徴や考えかた・手法、あるいは歴史学の存在意義と、密接にかかわっています。この壮大な問いに明確な解答を与えることは困難ですが、授業中で紹介されるさまざまな考えかたやエピソードをもとに、いまの自分なりの結論を出してください。それが、「歴史的に思考する」ことの第一歩です。この授業は、その入り口までみなさんをご案内するためのものです。

科目目的

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」について考えます。

到達目標

1. 歴史学の学問としての性格と今日的意義について説明できる。
2. 歴史学を研究するうえで必要とされる技術について説明できる。
3. 歴史とは何であるかについて、この授業における結論を理解し、説明できる。
4. 歴史の中で生きることの意味について、この問題に関するさまざまな議論をふまえて、自分の見解を説明できる。

授業計画と内容

1. クリオのひざもとへ
2. 創られる伝統
3. 歴史のもつ力
4. 史料の時代性
5. 歴史的制約
6. 歴史は繰り返すか
7. 時間の実在をめぐって
8. 「真実らしい過去」
9. 歴史を「語る」
10. 死者との共生・共存・共闘
11. 「天道、是か非か」
12. 歴史は人間が創る
13. 歴史とは何か
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

[予習]

各授業回の最後に提示された参考文献(または作品)を必ず読んで(あるいは観て・聴いて)から、次の回の授業に臨んでください。その際、内容はもちろん、「なぜこの文献(作品)が課題として指定されたのか」について熟考するようにしてください。そこに授業理解のためのヒントがあります。

[復習]

各授業回の中で提示される関連文献(または作品。ただし、予習のためのものは除く)のうち、毎回最低1点を読んで(あるいは観て・聴いて)、授業内容について理解を深めてください。また、授業中に指示された課題に必ず取り組んでください。

この授業は情報量がきわめて膨大なため、復習を怠るとすぐについていけなくなります。決しておろそかにしないでください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- [テキスト]
固定したテキストは使いません。必要に応じて、manabaにて資料を配付します。
- [参考文献・作品]
各授業回の最後に、その次の回で扱う予定の参考文献(または作品)のうち、重要なものを提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は、基本的に授業終了後にその場で受け付けます。それ以外の時間を希望する人は、あらかじめ申し出て、アポイントをとってください。

manabaの「個別指導コレクション」からご質問いただくこともできます。その場合、回答には少し時間を要する場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

参考URL

備考

科目名： 東アジア古代史**担当教員： 会田 大輔**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G201

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：XEC506

更新日時：2025-01-06 14:58:2

授業形式

面接授業で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中国の南北朝時代(5～6世紀)は遊牧民が華北を支配し、漢人が長江流域を支配した分裂時代である。この時代は、中国史の時代区分において重要な時代である。南北朝時代を古代と位置付ける学説と中世と位置付ける学説が存在し、今に至るまで決着はついていない。さらに近年では、ヨーロッパ史の「古代末期」概念を導入する学説もある。そこで本講義では、中国の南北朝時代の政治・社会について、近年の研究成果を踏まえて概観し、中国史の時代区分についても考察を深めていく。

科目目的

本講義の主な目的は、南北朝時代の流れを理解したうえで、中国史の時代区分について考えを深めることである。また、異なる時代や地域における王朝・国家の盛衰との比較検討を行うための視点を獲得することを目指す。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- ・南北朝時代の流れを理解すること。
- ・中国史の時代区分について、諸説の検討と南北朝時代の概要を踏まえて考えを深めること。
- ・本授業で学んだことを、自身の専門とする研究に応用できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回:南北朝時代の時代区分
- 第2回:五胡十六国—諸民族の流入と中華の分裂
- 第3回:北魏前期(一)—拓跋珪の北魏建国
- 第4回:北魏前期(二)—北魏の華北統一
- 第5回:東晋の興衰と宋の建国
- 第6回:南朝における「伝統」の創出
- 第7回:南朝貴族社会
- 第8回:北魏の馮太后の諸改革
- 第9回:北魏孝文帝の中国化政策
- 第10回:孝文帝改革後の北魏
- 第11回:東魏VS西魏
- 第12回:北齊VS北周
- 第13回:皇帝菩薩蕭衍と侯景の乱
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 授業内容の理解度を判定するテストを行います。
レポート	0%
平常点	50% 授業時の取り組み、特に毎回配布するリアクションペーパーによって評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数が全授業回数の80%未満の場合は、成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業でテキストは使用しません。適宜、レジュメを配布します。

<参考文献>

授業の中で適宜紹介する。全体に関連する概説書として、次のものがある。

松丸道雄ほか編『中国史2—三国～唐』(山川出版社、1996年)

川勝義雄『中国の歴史3 魏晋南北朝』(講談社学術文庫、2003年、初版1974年)

谷川道雄『隋唐世界帝国の形成』(講談社学術文庫、2008年、初版1977年)

川本芳昭『中国の歴史05 中華の崩壊と拡大 魏晋南北朝』(講談社学術文庫、2020年、初版2005年)

会田大輔『南北朝時代—五胡十六国から隋の統一まで』(中公新書、2021年)

オフィスアワー

その他特記事項

- ・毎回リアクションペーパーを提出する。
- ・受講者の状況、希望に応じて、授業の一部の内容や形式を変更することもある。
- ・本講義は史料の精読ではなく、内容を理解することに力点を置いたため、受講者の漢文の読解力は求めない。

参考URL

備考

科目名： 東アジア近世史**担当教員： 木村 拓**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 月1

配当年次：2～4年次担当

科目ナンバー：LE-OH2-G203

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AA2344

更新日時：2024-12-26 09:43:0

授業形式**履修条件・関連科目等**

前期開講の朝鮮史を併せて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

朝鮮時代の前期(14世紀末～16世紀末)における朝鮮外交史の特徴について講義します。当該期は、中国史ではほぼ明代に相当し、日本史では大体室町時代中期から戦国時代に相当します。朝鮮の明に対する外交の特徴を押さえた上で、明と朝鮮との関係(冊封関係)が朝鮮の日本に対する外交に如何なる影響を与えたのかを考えることが最終的な目標となります。また、朝鮮外交史研究が抱えている諸問題についても併せて考えていきます。

科目目的

朝鮮外交史のあり方を見ていくことにより、近世の東アジア国際関係の特質に関して理解を深めます。

到達目標

- 以下の二点を大きな到達目標とします。
- ・朝鮮外交史の特質を理解する。
 - ・近世東アジア国際関係史に関する知見を深める。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 序論1:朝鮮外交に関する研究史
3. 序論2:朝鮮外交と冊封体制
4. 朝鮮の対明外交1:冊封
5. 朝鮮の対明外交2:朝貢
6. 朝鮮の対明外交3:小中華意識と侯国的立場
7. 朝鮮の対日外交1:授職・授図書政策
8. 朝鮮の対日外交2:両国使節の往来
9. 朝鮮の対日外交3:「交隣」と「私交」
10. 朝鮮の対日外交4:外交文書
11. 朝鮮の対日外交5:偽使問題
12. 16世紀の東アジアと朝鮮
13. 壬辰戦争(秀吉の朝鮮侵略)と朝鮮
14. 総括と期末試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	70%	論述試験の点数によって評価します。
レポート	0%	
平常点	30%	授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

期末試験の詳細については授業中に指示します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業において、授業内容に関する小レポート書いてもらいます。提出された小レポートの内容に応じて、授業中に講評と解説を行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- <テキスト>
- テキストは使用しません。各回の授業内容に関するレジュメを配布します。
- <参考文献>
- ・山内弘一『朝鮮からみた華夷思想』(山川出版社、2003年)
- ・岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史—交隣と属国、自主と独立—』(講談社、2008年)
- ・木村拓『朝鮮王朝の侯国的立場と外交』(汲古書院、2021年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 東アジア近現代史

担当教員: 藤谷 浩悦

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-OH2-G204

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:1

更新者: AB4883

更新日時: 2024-11-19 09:13:4

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、東アジア近代の歴史的事象について、中国と日本の文化の交流と摩擦というテーマに即しながら、髪型や衣装、身体観、病氣、都市、宗教などを中心に、多角的な観点から取り上げます。

科目目的

現在、大学生にはグローバル化の時代にあって、多角的な観点、幅広い教養、柔軟な思考が求められています。本講義では、学生が歴史を考える上で必要となる、基本的な考え方、知識の習得を目指します。この科目は教養科目になります。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・東アジアの近代に現れた、政治、社会、文化の諸現象について、この背景や原因、意義を含めて、他者に説明できるようになること。
 - ・これらの諸現象に関する課題を、多角的な視点から考察できるようになること。
 - ・レポートの作成を通じて、自分の意見をまとめ、表現できるようになること。

授業計画と内容

1. 授業の目的
2. 髪型の意味(辮髪、丁髷など)
3. 「身体の加工」の歴史(コルセット、纏足、お歯黒、眉剃り)
4. 身体観の推移(風姿、体型)
5. 東アジアの衣装と身体(旗袍、着物、チマ・チョゴリ)
6. しぐさと言葉、身分
7. 身体観の推移(モダニズムと東アジア)
8. 中間総括
9. 香りの文化
10. 資生堂の戦略(憧れと広告)
11. 近代の香水の展開
12. チャイナ・ドレスの多様性(旗袍と唐服、漢服)
13. 20世紀の意識革命(ポスト・モダンの変容)
14. 総括

manabaを用いて、毎回講義の内容のまとめを行っています。このまとめによって、次回の講義とのつながりが確認できるようになっています。また、講義内容の不明点についても、解説をしています。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業終了後に、リアクションペーパーを書いていただきます。このリアクションペーパーでは、授業内容をまとめていただくとともに、感想を書いていただきます。教員は適宜、学生に対して、この感想にそってレポートを書いていただきます。教員はこのレポートを読み、コメントを示します。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% レポートを読み、課題への取り組み方、達成度を評価します。
平常点	50% レポートの提出状況の評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

フィードバックは、manabaを用いて、各レポートに対する教員の感想、意見と共に、今後の学習の方向性、参考図書などを提示する形で行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

〈テキスト〉テキストは特になし。
〈参考文献〉藤谷浩悦『井上雅二と秀の青春(一八九四―一九〇三)——明治時代のアジア主義と女子教育——』(集広舎、2019年)

オフィスアワー

その他特記事項

歴史だけでなく、文学、哲学など、人文系の学問を幅広く履修してください。

参考URL

科目名： 東南アジア史**担当教員： 高橋 宏明**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G205

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AA1729

更新日時：2024-12-11 10:29:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、東南アジア大陸部、特にカンボジアを中心としたインドシナ半島の近現代史を中心に、歴史的な流れとその捉え方や考え方、政治、社会、国際関係などについて、外交文書の読解と分析を通じて講義します。特に、1980年代以降のカンボジアの対外関係や国家再建過程を、主に日本やフランスの外交文書等を読み解きながら、授業を進めます。

科目目的

本科目の学習を通じて、学生が近現代のインドシナ世界の成り立ち・歴史・社会・文化に対する認識を深めるとともに、現代日本とインドシナ地域(特にタイ、カンボジア、ベトナム)の政治的・社会的・歴史的な関係について理解し、専門的な学識と幅広い教養を修得することを目的としています。

到達目標

本科目では、近現代のインドシナ地域(特にタイ、カンボジア、ベトナム)について、インドシナ難民問題の実態、国際社会の関与、日本外交の果たした役割などを理解し、他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

20世紀後半のカンボジア「問題」に着目し、政治情勢、社会状況、対外関係の実態について、外交文書を読解しながら多角的・複眼的に分析します。参考文献も適宜参照しながら、以下のテーマで講義を進めます。

- 第1回 ガイダンス～近現代のインドシナ地域を学ぶ意味について～
- 第2回 大航海時代のインドシナ半島と日本
- 第3回 フランス領インドシナ連邦(仏印)と日本の関係
- 第4回 インドシナ戦争からベトナム戦争の時代へ
- 第5回 ベトナム戦争とカンボジア「内戦」
- 第6回 クメール・ルージュのジェノサイド(大虐殺)
- 第7回 カンボジア「問題」の解決に向けて
- 第8回 日本の関与①～インドシナ難民の発生と日本～
- 第9回 日本の関与②～外交文書の読解と分析～
- 第10回 日本の関与③～外交文書から見た「和平」への道のり～
- 第11回 日本の関与④～外交文書の中の政治アクター～
- 第12回 日本の関与⑤～1987～1990年の動向分析～
- 第13回 日本の関与⑥～冷戦終結と湾岸戦争とカンボジア「和平」～
- 第14回 まとめと総括～カンボジアPKOと日本～

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	インドシナ世界の歴史と社会についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。
レポート	30%	レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレポート作成できるかどうかを評価します。
平常点	40%	授業への参加・貢献度(意見の表明、他の学生と議論したり協調して学ぶ姿勢など)、リアクションペーパーの提出、受講態度等の条件を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身の無いものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関(国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他)との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会(ICC)の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同文書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

テキスト・参考文献等

特定のテキストは用いません。
参考文献として、以下を適宜参照して下さい。

- ・明石康『カンボジアPKO日記～1991年12月-1993年9月～』岩波書店、2017年。
- ・池田維『カンボジア和平への道～証言 日本外交試練の5年間～』都市出版、1996年。
- ・今川幸雄『カンボジアと日本』連合出版、2000年。
- ・河野雅治『和平交渉～対カンボジア外交の証言～』岩波書店、1999年。
- ・桃木至朗その他編著『東南アジアを知る事典』平凡社、2008年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 南アジア史**担当教員： 小倉 智史**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G206

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD2012

更新日時：2024-11-28 16:52:4

授業形式

全ての授業回について、対面授業を実施します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、先史時代から現代までの南アジアの歴史を、特に諸宗教の歴史に注目しつつ、扱います。今日の南アジア(インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブ)には、ヒンドゥー教やイスラーム、ジャイナ教やシク教など、様々な宗教を奉じる人々が暮らしています。本講義では、それらの宗教が古代から近現代までの間、どのような発展を遂げてきたのかを講述します。特に、それぞれの宗教の歴史を個別に扱うのではなく、互いにどのように接触し、影響を及ぼしあってきたのかを詳しく見ていきます。

科目目的

南アジアにおける諸宗教の形成・到来と展開を長期的視野でとらえて、現代南アジアの多様性の淵源についての理解を深めることを目的とする。

到達目標

- ・南アジアの諸宗教の歴史や相互関係を理解するとともに、現代の宗教問題を歴史的見地に立って理解するための視座を獲得する。
- ・南アジアの特徴の一つである社会・文化的多様性について理解を深める。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション・インダス文明
- 第2回 インド・ヨーロッパ語族インド語派とヴェーダの宗教
- 第3回 十六大国時代の諸宗教の出現
- 第4回 マウリヤ朝・クシャーーン朝と仏教
- 第5回 パラモン教からヴィシシュヌ教・シヴァ教へ
- 第6回 ムスリム勢力の到来
- 第7回 中世前期の諸宗教間の関係
- 第8回 中世後期・ムスリム政権下の諸宗教間の関係
- 第9回 ムガル帝国のコスモポリタニズムとシク教の展開
- 第10回 ヨーロッパ勢力とキリスト教の到来
- 第11回 英領期における宗教の「発見」
- 第12回 独立運動と宗教
- 第13回 インド・パキスタン・バングラデシュの分離独立
- 第14回 現代南アジアの宗教問題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	授業内容の理解を問う学期中の小レポート(二～三回を予定)と、応用力を問う期末レポートによって評価します。小レポートの割合、期末レポートの割合ともに30%です。
平常点	40%	授業への参加・貢献度、リアクション・ペーパーの記述内容を評価の基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは指定しない。毎回配布するレジュメを利用する。

参考文献として以下の文献を挙げるので、適宜参照してください。
早島鏡正・高崎直道・原実・前田専学『インド思想史』東京大学出版会, 1982年。
ラーマクリシュナ・G・バンダルカル『ヒンドゥー教』島岩・池田健太郎訳, せりか書房, 1984年。
山崎元一他編『世界歴史体系 南アジア1 先史・古代』山川出版社, 2007年。
小谷汪之編『世界歴史体系 南アジア2 中世・近世』山川出版社, 2007年。
辛島昇編『世界歴史体系 南アジア3 南インド』山川出版社, 2007年。
長崎暢子編『世界歴史体系 南アジア4 近代・現代』山川出版社, 2017年。
東長靖『イスラームのとらえ方(世界史リブレット)』山川出版社, 1996年。
佐藤次高『イスラーム 知の営み』山川出版社, 2009年。
山根聡『4億の少数派 南アジアのイスラーム』山川出版社, 2011年。
外川昌彦『宗教に抗する聖者』世界思想社, 2009年。
バーバラ・D・トカーフ/トーマス・R・トカーフ『ケンブリッジ版各国世界史 インドの歴史』創土社, 2006年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： イスラーム前近代史**担当教員： 末野 孝典**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G207

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD1712

更新日時：2025-01-08 14:27:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、前近代におけるイスラームの歴史をより深く理解することを目指します。前近代のイスラーム世界は時間的にも地理的にも極めて広大であるため、以下のような4つのトピックを設定して解説します。

(1) イスラームの誕生

まずはじめに、預言者ムハンマドに啓示が下される以前／以後のアラビア半島社会の歴史状況について確認し、ムハンマドが生涯をかけて築き上げたウンマ＝共同体が分裂して以降の政治的動乱からアッバース朝革命までの歴史を扱います。

(2) 学知の形成と発展

続いて、イスラーム古典期(ここでは8世紀から10世紀末までを射程とする)において学知がどのように形成され発展したのかについて説明します。言うまでもなく、イスラームに係わる知識が書物の形式で伝わるようになる以前は、口承によって知識が伝達されていたわけですが、そこには「口伝」と「書伝」のあいだにある複雑な緊張関係がありました。後代に知を伝達する手段として「書伝」が有力になった歴史のプロセスを辿りながら、おもにハディース学とイスラーム法学について解説したいと思います。

(3) スーフィズムの成立と拡大

ここでは、スーフィズム(アラビア語原文だとタサウフ)がどのような歴史を歩んできたのかについて解説します。受講者にとってあまり馴染みのない分野だと思われるので、基本事項についても確認しますが、特にイスラーム思想史上、最大の師とも称されるイブン・アラビーとその後継者たちの神秘主義思想(存在一性論や完全人間論など)を解説することに重きを置きます。近年、世界的にも盛り上がりを見せている文字論についての考え方も紹介します。

(4) 辺境のイスラーム

最後のトピックでは、中東から西アフリカに舞台を移し、当該地域におけるイスラームの歴史的展開について説明します。具体的に言えば、サハラ沙漠以北と以南のヒト・モノ・カネをつなぐサハラ縦断交易を取り上げたり、この地域で歴史叙述が生まれた政治的動機についてなどを解説します。中東と異なる地域のイスラーム史を学ぶことで、比較の視座を養うことも目指します。

科目目的

イスラーム史を学ぶうえで欠かすことのできない史料に関する専門的な知識を身につけるとともに、歴史事象を考察するための視野を培うことを目的とします。また4年次に執筆する卒業論文のためにテーマを探る手掛かりを附与することも目指します。

到達目標

1. 前近代のイスラーム世界の歴史的展開を大まかに説明できる。
2. イスラーム史を扱ううえでの史料的問題について説明できる。
3. 前近代イスラーム史における研究テーマを先行研究を踏まえて見つけ出すことができる。
4. 自らが設定した研究テーマに対して史料や先行研究を踏まえながら、自らの見解を論じることができる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イスラームの誕生①: イスラーム以前と以後のアラブ社会
- 第3回 イスラームの誕生②: 聖典クルアーンの世界観
- 第4回 イスラームの誕生③: アラブ帝国からイスラーム帝国へ
- 第5回 学知の形成と発展①: タスニーフ運動と書式の発達
- 第6回 学知の形成と発展②: ハディースと法学派
- 第7回 スーフィズムの成立と拡大①: 禁欲主義から神秘主義へ
- 第8回 スーフィズムの成立と拡大②: スーフィー教団と聖者信仰
- 第9回 スーフィズムの成立と拡大③: イブン・アラビーとその後継者たち
- 第10回 スーフィズムの成立と拡大④: 文字神秘主義
- 第11回 辺境のイスラーム①: サハラ縦断交易と諸王国の興隆
- 第12回 辺境のイスラーム②: 歴史ジャンルの登場と歴史叙述の諸特徴
- 第13回 辺境のイスラーム③: ジハード運動とイスラームの拡大

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	80%	中間レポートと学期末のレポート課題により、全体の到達度について評価します。なお学期末レポートの字数は2000～3000字程度を予定しています。
平常点	20%	授業への参加・貢献度、受講態度(意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度等)の状況を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

本講義の成績評価方法については初回の授業で詳しくアナウンスする予定です。とりあえず現時点の案としては、レポート課題を二回提出して頂くと考えています。中間レポートは参考文献リスト、学期末レポートは学生自らが選択したテーマに基づいたレポートを提出して貰おうと思っています。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。レジュメを適宜配布します。

ここでは、前近代のイスラーム史の大枠を知るうえで役立つ参考書を幾つか紹介しておきます。

- ・アルバート・ホーラーニー(湯川武・阿久津正幸訳)『アラブの人々の歴史』第三書館、2003年。
- ・井筒俊彦『イスラーム思想史』中央公論新社、2005年。
- ・小杉泰『イスラーム文明と国家の形成』京都大学出版会、2011年。
- ・菊地達也『イスラーム教「異端」と「正統」の思想史』講談社、2009年。
- ・佐藤次高『イスラームの国家と王権』岩波書店、2004年。
- ・ジョナサン・バーキー(野本晋・太田絵里奈訳)『イスラームの形成:宗教的アイデンティティーと権威の変遷』慶應義塾大学出版会、2013年。

※より詳しい文献案内は授業内で行います。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名： イスラーム近現代史**担当教員： 鈴木 恵美**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：火3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G208

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AA2229

更新日時：2025-01-11 17:21:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中東地域における近代国家の建設とイスラームをテーマに、同地域が直面している諸問題の背景を探る。具体的に取り上げるテーマは、パレスチナ問題、アラブ共和主義革命、イスラーム主義の台頭、アラブ動乱(「アラブの春」)などである。最終的にはこれらの問題について、個別の問題としてではなく、一つの大きな流れのなかで理解できるようになることを目指す。

科目目的

中東地域を特殊な地域とせず、国際社会全体のなかでとらえること。
地域の問題について、自身の意見を述べることができるようになること。

到達目標

現在、中東地域で起きている問題について、歴史的な経緯を踏まえて体系的に理解すること。また、問題に対して、一方的な視点からではなく、多角的な視点から考察する能力を養うこと。授業で学ぶ知識と現代の問題を一つの流れの中でとらえること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、中東地域の特徴
- 第2回 中東地域の問題の見方
- 第3回 オスマン帝国の解体とアラブ地域
- 第4回 イスラエル建国
- 第5回 アラブ共和主義革命
- 第6回 第三次中東戦争と民族解放運動
- 第7回 レバノン:多極共存型国家の理想と現実
- 第8回 イラン・イスラーム革命、ソ連のアフガニスタン侵攻
- 第9回 イスラーム主義の系譜とグローバル・ジハードの拡大
- 第10回 アラブ動乱(「アラブの春」)の背景
- 第11回 軍と政治
- 第12回 イスラーム主義政党の台頭
- 第13回 イスラーム主義か民主主義か
- 第14回 イスラーム近現代史の総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業の前に高等学校世界史教科書(とくに近現代の部分および西アジア地域に関する部分)を読み直して予習しておくことが望ましい。
- ・現在の西アジア(中東)で起きている事件や報道について、新聞・テレビ・ネットニュースなどに注意し、同地域が抱える問題に関する知識を深め、授業に参加する。そこで疑問に感じた事項などを整理して、授業中あるいはコメントペーパーで質問をするなど積極的に参加する態度を取る。
- ・授業の後、その内容を復習し、次回の授業に備える。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 学習した内容の理解度
レポート	0%
平常点	30% 授業に対する積極性
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーなどで授業内容についての質問を受け、次回授業で解説・補足説明を行なう。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に設けない。参考文献は授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 朝鮮史**担当教員： 木村 拓**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G209

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AA2344

更新日時：2024-12-26 09:42:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

後期開講の東アジア近世史を併せて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在、世界の状況は時々刻々とグローバル規模で変化を続けており、それは東アジアにも影響を及ぼさないわけにはいかないでしょう。日韓関係や日朝関係も直接・間接的にその影響を受けていることは間違いありません。我々としては、そうした変化を冷静に捉え、自ら考えながら隣国と付き合いしていくことが重要です。しかし一方で、しっかりと腰を据えて、朝鮮史を学び、それを通じて相手の考え方や、その背景にある歴史的に形成された文化を理解することも同じくらい重要です。また、実際に韓国・朝鮮の人々と付き合いしていくには、朝鮮史をある程度知らないわけにはいきません。本講義では、朝鮮史について、日本と関係の深いテーマを選択し、各テーマに関して可能な限り多角的に考えていきます。

科目目的

朝鮮と日本の間で、どのような歴史が展開し、その歴史がこれまでどのように研究・解釈されてきたのかを学びます。

到達目標

- 以下の点を大きな到達目標とします。
- ・これまでの日朝関係史研究の軌跡と論点を理解する。
 - ・朝鮮史研究と日本(史)との関連を理解する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス:朝鮮史の基本知識
- 第2回 近現代日朝関係史の概略
- 第3回 近代歴史学と朝鮮史1:戦前篇
- 第4回 近代歴史学と朝鮮史2:戦後篇
- 第5回 広開土王碑1:概略
- 第6回 広開土王碑2:研究史
- 第7回 高麗時代史の概略:元との関係を中心に
- 第8回 元寇1:一国史的観点から世界史的観点へ
- 第9回 元寇2:日本社会に残したもの
- 第10回 朝鮮王朝と日本の関係史の概略
- 第11回 倭寇1:構成員に関する議論
- 第12回 倭寇2:さまざまな解釈
- 第13回 広開土王碑・元寇・倭寇研究から学ぶべきこと
- 第14回 総括+期末テスト

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内で指定された参考文献を読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 論述試験の点数によって評価します。
レポート	0%
平常点	30% 授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末試験の詳細については授業中に指示します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- <テキスト>
テキストは使用しません。各回の授業内容に関するレジユメを配布します。
- <参考文献>
・吉野誠『東アジアのなかの日本と朝鮮—古代から近代まで—』(明石書店、2004年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中央アジア史**担当教員： 新免 康**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G210

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AA0014

更新日時：2025-01-18 22:13:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在の旧ソ連領中央アジア諸国家に該当する中央アジア地域を歴史的に設定し、その近現代史の流れを辿ります。とくに、ロシア帝国・ソ連の統治下における政治的枠組と政策の変化だけでなく、それとの連関において当該地域の主要な住民であるテュルク系・イラン系ムスリムの諸民族の社会・文化の変容に注目しつつ、歴史の各段階における重要な局面について検討したいと思います。その上で、近現代史の推移を通してそれが現在の状況にどのようにつながっているかについても考えます。

科目目的

中央アジア(おもに旧ソ連領中央アジア)とはどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得するとともに、歴史の内実を系統的に理解するための視点を養うことを目的とします。また、そのような歴史的背景を視野にいれつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の文化・社会に対する理解を深めます。

到達目標

- ・中央アジア(おもに旧ソ連領中央アジア)がどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得し、それを自ら系統的に説明できるようになることを目標とします。
- ・中央アジアの近現代における歴史の流れについて、各段階の具体的な状況を含め把握します。
- ・とくにロシア・ソ連の統治下における中央アジアの諸民族の社会・文化の状況とその変容の様相について理解を深めます。
- ・上記の作業を通じて、中央アジアの歴史の内実を系統的に理解するための視点を養います。
- ・また、近現代史に関する知識・視点を背景としつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の社会・文化に対する理解を進めます。

授業計画と内容

基本的に講義形式で授業を行います。各回の授業内容は以下の通りです。

1. 授業計画、中央アジアという地域の設定
2. 現在の中央アジアの諸民族とその特徴、歴史展開の様態
3. ロシア帝国進出以前の中央アジア
4. ロシア帝国の中央アジア進出とその背景
5. ロシア帝国による中央アジア統治政策
6. ロシア帝国統治下のムスリム社会とその変容
7. ジャディード運動の勃興
8. ジャディードの思想と活動
9. トルキスタン・ナショナリズム
10. ロシア革命とソ連時代前期の中央アジア
11. ソ連時代後期の中央アジア
12. ソ連解体後の中央アジア
13. 中央アジアの文化とイスラーム
14. まとめ

※基本的に対面で授業を行う予定です。

※事情(合理的な理由)により対面での授業への出席が叶わない履修者がいる場合は、資料配信型などで対応致します。

※具体的な授業方法・段取等についてのお知らせは、manabaのコースニュースに掲載しますので、随時確認してください。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業において、授業内容に関わる課題を出しますので、manabaのレポート機能を用いて小レポートを提出していただきます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学期末の課題レポートにより、全体的な到達度について確認します。
平常点	70% 授業への参加状況、毎回の小課題の回答状況・内容について評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・毎回の授業において、紙の受講カードを配布し、その提出をもって出席を確認する予定です。
- ・原則として、前回小課題の講評を行う時間帯の後、受講カードを配布します。
- ・配布以後に入室した履修者には受講カードを配布しません。
- ※交通機関のトラブルで遅刻し、遅延証明書を提出した場合は、この限りではありません。
- ・各授業ごとに出席を確認できた学生の提出した小レポートを評価の対象とします。正当な理由なく欠席した場合は、その欠席した回の小レポートを提出することはできません。
- ・小レポートを正当な理由なく5回以上提出しなかった者、学期末の課題レポートを提出しなかった者は評価の対象とせず、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回、授業内容に関わる課題を出し、小レポートを提出していただき、次回に課題に対する皆さんの回答を踏まえ、全体的な講評を行います。
- ・毎回の授業内容に関して皆さんから出た質問に対し、基本的にすべて回答を提示します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は用いません。毎回の授業の際に資料を配布します。
参考文献については随時紹介していきますが、全体に関わるものとして以下を掲げます。

- ・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年。ISBN: 978-4634413405
- ・小松久男等編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年。ISBN: 978-4582126365
- ・宇山智彦編『中央アジアを知るための60章』【第2版】明石書店、2010年。ISBN: 978-4750331379
- ・小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年。ISBN: 978-4634640870

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 歴史地理学の方法**担当教員： 市来 弘志**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 木2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G211

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：XEC507

更新日時：2025-01-16 13:38:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史地理学は、景観や様々な地理的事象を歴史的に研究する学問です。日本では地理学の一分野ですが、中国では歴史学との共通性が強いのが特色です。この授業では、中国歴史地理学の多様な研究視点と成果の紹介を通じて、歴史地理学の研究方法について考えます。歴史研究に地理的視点が不可欠なのは言うまでもありません。ここで学んだことを歴史研究に活かしてもらえればと思います。

科目目的

歴史地理学の概念と方法を理解し、これを歴史研究に応用できる能力を身につける。

到達目標

歴史地理学の概念と方法を理解した上で、歴史研究に応用するための視点やツールの利用方法を習得する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国歴史地理学の系譜(1)近代以前
- 第3回 中国歴史地理学の系譜(2)近現代
- 第4回 歴史水文地理:治水と歴史地図
- 第5回 歴史環境地理(1)気候変動と環境
- 第6回 歴史環境地理(2)森林の変遷と沙漠化の進行
- 第7回 歴史経済地理(1)経済中心地の移動
- 第8回 歴史経済地理(2)農業牧畜境界線
- 第9回 歴史民族地理:多民族国家の形成過程
- 第10回 歴史人口地理:中国史上の人口変動と移動
- 第11回 歴史軍事地理:軍事地理の現代的意義
- 第12回 歴史文化地理:各地域の文化的特色
- 第13回 歴史政区地理:中国歴史地理学の原点
- 第14回 まとめ:中国歴史地理学の展望

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時に資料を配布し、参考文献を紹介しますので、それらを活用して授業への理解を深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 50% 期末レポートの提出で評価します。

平常点 50% 授業に出席し、課題を提出して下さい。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは指定しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 生活史・心性史の方法**担当教員： 前田 弘毅**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G213

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD2013

更新日時：2024-11-23 09:10:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、ユーラシア世界における文明や諸政体の歴史的特徴を、地理空間と生活文化に注目しながら学んでいく。具体的には次の二つの柱を据える予定である。授業の前半では、ユーラシア地政学を具体的な事例をもとに学んでいく。平原の国モンゴル、山岳国ジョージア、海と内陸世界のぶつかるトルコの3国を例にとりながら、それぞれの歴史と生活文化の特徴について論じる。たとえばモンゴルでは遊牧帝国、ジョージアでは奴隷軍人、トルコでは「二つの海」支配の特徴などのトピックを取り上げる予定である。さらに、授業の後半では、こうした自然世界と人間の関わりを特徴的に示す素材として、ワインを本授業のもうひとつの柱として取り上げる。特に世界最古のワイン醸造国ともされるジョージアにおける伝統的なワイン文化に注目する。8000年ともいわれるその歴史の中で、キリスト教を国教として受容した意味や、ソ連期における変容、さらに独立以降の歩みなど、その現代史的側面についても解説を加える。また、世界無形文化遺産にも登録された、地中に埋めた甕クヴェヴリを用いる独自の伝統的ワイン製法についても紹介する。

科目目的

ユーラシアの歴史と生活文化に関する基礎的な知識を獲得する。

到達目標

ユーラシア各地の歴史と生活文化を結びつけて学ぶことにより、世界史の教養を深める。生活史の地域的特性についての専門的な知識を獲得し、ユーラシア史と生活文化について、深い洞察力を修得して、自らで考える力を涵養する。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. モンゴルから考えるユーラシア平原地域の歴史と生活文化
3. 同平原地域の歴史・モンゴル帝国
4. ジョージアから考える同山岳地域の歴史と生活文化
5. 同山岳地域の歴史・ジョージア王国
6. トルコから考える同平原・海域地域の歴史と生活文化
7. 同平原・海域地域の歴史・オスマン帝国
8. 中間総括
9. ジョージア・ワイン総説
10. ユーラシア最古のワインの里
11. ジョージア・クヴェヴリ・ワインの秘密
12. 国民文化としての宴～スプラとタマダの世界
13. ジョージア・クヴェヴリ・ワインの将来
14. 総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	20%	課題図書に関するレポートを中間課題として課す。
期末試験	30%	学期末に、授業内容の理解を問う試験を課す。
レポート	0%	
平常点	50%	授業時の取り組み、特に原則毎回配布するリアクションペーパー(授業内容のまとめや理解度確認の項目を設定する)によって評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業中に適宜問いかけやディスカッションの時間を設けることがある。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

原則としてレジュメ等を毎回配付するが、ジョージア・ワインについては前田・ワーデマン『ジョージア・ワイン・ルネサンス』(群像社、2025年刊行予定)を使用する予定である。

参考文献は授業時に適宜指示する。全体に関連する概説書として、キング『黒海の歴史:ユーラシア地政学の要諦における文明世界』(明石書店、2017年)、ジョージア・ワインについては島村・合田・北嶋『ジョージアのクヴェヴリワインと食文化:母なる大地が育てる世界最古のワイン伝統製法』(誠文堂新光社、2017年)を参照のこと。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・原則として毎回リアクションペーパーを提出する。
- ・受講者の状況、希望に応じて、授業の一部の内容や形式を変更することもある。

参考URL

科目名： グローバルヒストリー入門**担当教員： 末野 孝典**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HT2-G214

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD1712

更新日時：2025-01-08 13:59:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代歴史学が誕生して以来、歴史学は実にさまざまな立場や方法が採られてきました。グローバルヒストリーはそのひとつの潮流として、2000年代以降に急速に発展してきた分野といえます。本講義では、グローバルヒストリーについての基本的な考え方を理解するために、(1)近代歴史学と「新しい」歴史学の学問的性格の違いについて、(2)グローバルヒストリーが現れた時代背景とその特徴について、(3)グローバルヒストリーの実践面について、の三つの観点から議論を進めていきます。これらの議論を通して、グローバルヒストリーが突如として生まれた歴史理論ではなく、これまでの歴史学の議論の積み重ねのなかで培われてきた歴史を見るための有効な視座のひとつであることを理解することを目指します。

科目目的

グローバルヒストリーについて考える・実践するための基礎知識を提供します。

到達目標

1. 歴史学を研究するための基本的な技法について説明することができる。
2. 近代歴史学の学問的性格を踏まえたうえで「新しい」歴史学の諸特徴について説明できる。
3. グローバルヒストリーのアプローチ方法について説明することができる。
4. グローバルヒストリーとは何かについて、本講義の内容を理解したうえで説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨナー「世界」史とは？
- 第2回 「世界史」観の変遷を辿る——聖書的な世界史から実証的な世界史へ
- 第3回 近代歴史学の成立——国民のための歴史の誕生
- 第4回 「新しい」歴史学①：ブローデルと長期持続
- 第5回 「新しい」歴史学②：ウォーラステインと「近代世界システム」論
- 第6回 「新しい」歴史学③：カリフォルニア学派と大分岐論争
- 第7回 「新しい」歴史学④：ポストコロニアリズム
- 第8回 グローバリゼーションの歴史学
- 第9回 グローバルヒストリーにおける時間——広い歴史と狭い歴史
- 第10回 グローバルヒストリーにおける空間——拡張する空間と収縮する空間
- 第11回 思想のグローバルヒストリー
- 第12回 グローバルな歴史を叙述する——誰のための歴史なのか
- 第13回 グローバルヒストリーとは何か——その可能性と限界を考察する
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要に応じてmanabaで資料を配布する。
グローバル歴史の大枠を知るためには、一般向けの概説書を読むとよい、下記はその一例である。
水島司『グローバル・歴史入門』(世界史リブレット)、山川出版社、2010年。
また各授業で扱うピクを知るために読むべき文献を挙げることもある。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋美術史B**担当教員： 砂澤 祐子**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR1-G302

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD2011

更新日時：2025-01-09 13:02:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「東洋美術史B／東洋史特論(2)」は、中国陶磁器の展開を中心にした工芸の通史の授業です。陶磁器は身近な工芸作品です。自宅に存在しない、あるいは人生で一度も使ったことがない人はいないでしょう。それらの「やきもの」のうち「磁器」をあらわす英語の一般名詞は「china」です。同じように漆器をあらわすのが「japan」です。中国では長い「やきもの」の歴史があります。世界でいちやく「磁器」を生産した中国の「やきもの」の歴史を通して、身近な使える美術工芸品の「やきもの」の歴史を学ぶことにより、「やきもの」が日本だけではなく、欧米など世界中で使われていることを知ることができ、世界規模の価値観とは何かについて考える視座の一つを身に着けることを目指します。

授業キーワード：中国、「やきもの」、磁器、陶器、土器、釉薬、窯、歴史、文化、美術、工芸

科目目的

中国の主要な陶磁器作品に関する産地・技法などの基礎知識を身に付け、その背景にある中国の歴史・社会について考察し、中国美術の多様性と造形の特徴についての理解を深めることを目的とします。それによって日本や韓半島の美術との相違点、および類似点に興味を持つことができるようになり、また、陶磁器を中心とした美術工芸作品の見方を身につけることを目指します。

到達目標

中国の新石器時代から清時代までの主要な陶芸作品(「やきもの」)に関する知識を習得し、各時代の陶芸作品について、具体的な作品例を挙げながらその名称から技法・産地などを説明できるようになることを目標とします。とくに美術館・博物館で作品を鑑賞したときに、作品の名称から、具体的に作品をイメージできるようになることを目指します。

授業計画と内容

第1回 やきもの一陶磁器について
身近な工芸品である陶磁器について、その性質や種類などについて実際の陶磁器に触れて再確認し、学修する。

第2回新石器時代の土器・漢時代から隋時代にかけての陶磁器
新石器時代の土器から紅陶・彩陶・灰陶・黒陶・白陶など、中国陶磁の黎明期の作品から、漢時代より続く古越磁と呼ぶ青磁、北朝・隋時代の北方の青磁・白磁を紹介する。

第3回唐・五代時代の陶磁器<唐三彩・白磁・黒磁>
20世紀に発見された唐三彩と、唐時代の白磁・黒磁のほか貿易陶磁として海外に輸出された長沙窯など、唐から五代時代にかけての陶磁器を紹介する。

第4回宋時代の陶磁器(1)<定窯・耀州窯・鈞窯・汝窯>
文献資料にも多く記載がある定窯の白磁などの作品や、北方の青磁窯である耀州窯・鈞窯・汝窯などの作品を技法や文献資料などを含めて紹介する。

第5回宋時代の陶磁器(2)<磁州窯・遼の陶磁器>
華北最大の民窯として知られる磁州窯の作品について技法を中心に概観する。あわせて、磁州窯と同様の技法を用いながらも契丹族が建国した遼の遊牧民族特有の美意識があらわれた作品を紹介する。

第6回宋時代の陶磁器(3)<越州窯・南宋官窯・龍泉窯>
中国を代表する越州窯青磁は、国内流通のみならず広く海外にも輸出され、日本では『源氏物語』にも「秘色」として登場する。また、南宋時代に盛んとなった龍泉窯も日本では「砧青磁」として珍重された。南宋官窯は、当時の都である杭州で宮廷用の青磁を焼成した。これらの中国南方の青磁を概観する。

第7回宋時代の陶磁器(4)<景德鎮窯・南方の白磁・建窯・吉州窯>
宋時代に青白磁を完成させた景德鎮窯。また、中国の南部沿海地域で焼造された白磁は、広く貿易陶磁として海外に輸出された。日本の茶の湯で高い評価を得た建窯や吉州窯の喫茶用の黒釉碗を中心に紹介する。

第8回元時代の貿易陶磁について

元時代中国の寧波から出航し、現在の韓国全羅南道新安沖で沈没したいわゆる「新安沈仙」に積載されていた黒釉磁を中心に、日本の茶の湯で用いる器のうち「茶入」と「茶壺」などについて紹介する。

第9回元時代の陶磁器<青花・青磁・青白磁・白磁>

元時代の景德鎮窯で完成した青花や龍泉窯の青磁など、貿易陶磁として海外に輸出された作品を中心に紹介する。

第10回 明時代の陶磁器(1)<官窯>

明時代の景德鎮官窯で焼造された陶磁器を、各年代の技法などを中心に作品を紹介する。

第11回 明時代の陶磁器(2)<景德鎮民窯>

景德鎮民窯で焼造された青花・五彩、鉛釉陶の流れを汲む法花などを紹介する。

第12回 明時代末期から清時代初期にかけての陶磁器

明時代から清時代にかけての特徴ある貿易陶磁の青花・五彩、鉛釉陶である華南三彩などを紹介する。

第13回 清時代の陶磁器

清時代の景德鎮官窯で焼造された陶磁器を、各年代の技法や清時代に新たに現れた技法を含め、多彩で精緻をきわめた作品を紹介する。

第14回まとめ:中国陶磁器の影響を受けたアジアの陶磁器

緑釉や三彩など、中国陶磁の影響を受けた日本の陶磁器を中心に紹介する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	100% 授業への参加、受講態度を基準とします。 第1回～第14回のうち授業終了時に実施する10回の小テスト(10点x10)に基づく。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリックカー

- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
使用しません。レジユメを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋考古学A**担当教員： 深山 絵実梨**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 木5

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-AR1-G303

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:1

更新者：AD0960

更新日時：2025-01-05 14:34:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、東南アジア地域を中心に先史時代から古代までの歴史を概観する。特に、考古学的調査研究によって明らかになった遺跡や考古遺物を紹介しながら、東南アジアの物質文化や文化的特徴、域内・域外交流などについて学ぶ。授業はパワーポイントスライドを用いた講義形式でおこなう。

科目目的

「東洋」における東南アジアの位置付けや、当該地域と日本とのかかわりを学ぶとともに、歴史研究において考古学的手法・調査研究の成果が果たす役割を理解することをめざす。

到達目標

- ・東南アジアおよびその周辺地域の風土や歴史、物質文化について説明できるようになること。
- ・考古学的な方法論を説明できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス: 考古学研究への招待
- 第2回 東南アジアについて
- 第3回 人類の誕生と東南アジアへの到達
- 第4回 狩猟採集の時代
- 第5回 農耕の開始
- 第6回 金属器の出現
- 第7回 先史時代の東南アジア域内ネットワーク
- 第8回 台湾の先史時代
- 第9回 域外からみた先史時代の東南アジア
- 第10回 東南アジアの初期国家
- 第11回 港市国家の成立と展開
- 第12回 東南アジアの「インド化」
- 第13回 先史・古代の東南アジアと日本
- 第14回 まとめ・総括・到達度確認 - 東南アジアの先史・古代 -

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・本授業への予習として、高校の世界史教科書や副教材、授業内で紹介する参考文献などをに目を通しておくこと。
- ・本授業への復習として、リアクションペーパーや課題を提出すること。
- ・可能な範囲で東南アジア関連の展示がある博物館・美術館へ見学に行くことを推奨します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	東南アジアおよびその周辺地域の風土や歴史、物質文化や、考古学的な方法論に関する知識を習得し、適切に解答できること。
レポート	0%	
平常点	40%	リアクションペーパーや課題の提出において、各授業の内容を理解していること、それらに関して自分の意見を表明できていること。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

※ただし、出席回数が10回に満たない者、試験を受験しなかった者はF判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で使用するテキスト:
- 各回で配布するレジュメ

自学用参考文献:

- 坂井隆・西村正雄・新田栄治『東南アジアの考古学(世界の考古学8)』同成社 1998
- 山本達郎 編『原史東南アジア世界(岩波講座 東南アジア史1)』岩波書店 2001
- 石澤良昭 編『東南アジア古代国家の成立と展開(岩波講座 東南アジア史2)』岩波書店 2001
- 荒川正晴ほか編『南アジアと東南アジア ~15世紀(岩波講座 世界歴史第4巻)』岩波書店 2022

※その他の参考文献は適宜授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 史料研究**担当教員： 渡部 良子**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G307

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:2

更新者：AD2014

更新日時：2025-01-11 12:06:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史研究は史料の上に成り立っており、史料についての正しい知識無くして、歴史研究を行うことはできません。また同時に、ある地域・時代の歴史を伝える多様な種類の史料が、どのような経緯で作られ、現在まで保存されることになったのかという問題は、その史料を生み出した社会の制度や文化と、密接に関わり合っています。史料の多様な類型や形式の意味、成立と伝世の経緯から、私たちはその社会が持つ歴史的な特徴を読み解くことができるのです。

本講義は、前近代西アジア・イスラーム史を題材に、7世紀アラビア半島に誕生した一神教イスラームが作り上げた社会・文化制度が、どのような史料を生み出してきたのか、アラビア語・ペルシア語・トルコ語のさまざまな史料を通して学んでいきます。イスラーム宗教諸学をめぐる諸制度の営みが反映された史料、イスラームの一神教的世界観を反映した歴史書、ムスリム諸王朝下の国家と社会の営みを反映する文書史料など、史料学という観点からイスラーム期西アジアの社会・文化について考察する力を身につけましょう。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「専門的学識」および「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下の2点を目標とします。

- ・イスラーム期西アジア諸史料類型とその特徴を体系的に知り、西アジア・イスラーム史研究の基礎知識を習得するとともに、他の地域・時代の史料学との比較の視点を身につける。
- ・史料のありかたから、それらの史料を成立させ、伝えたイスラーム期西アジアの社会・文化について学び、現代のイスラーム圏の社会・文化を歴史的視点から考察できる力を養う。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス イスラーム期西アジア史研究の史料学と史料類型
- 第2回 書記言語文化と史料①：イスラーム成立～聖典クルアーンとアラビア語文化の発達
- 第3回 書記言語文化と史料②：イスラーム文化の発展とイスラーム諸学文献の形成、製紙技術・写本文化の発達
- 第4回 書記言語文化と史料③：イスラーム・アラビア文字文化の展開とペルシア語・テュルク語文化の発達
- 第5回 ウラマー(知識人たち)の活動①：ハディースとイスラーム法学
- 第6回 ウラマー(知識人たち)の活動②：人名辞典が伝えるもの
- 第7回 歴史叙述と歴史書①：歴史学の登場と一神教イスラームの歴史観
- 第8回 歴史叙述と歴史書②：イスラーム的諸民族史の形成
- 第9回 勅令・行政文書史料①：西アジア・ムスリム諸王朝の政庁と書記官僚の活躍
- 第10回 勅令・行政文書史料②：勅令形式と王権の秩序
- 第11回 イスラーム法文書史料①：イスラーム法に基づく社会の営み
- 第12回 イスラーム法文書史料②：ワクフ(寄進)の社会・経済機能
- 第13回 貨幣史料：コインが持つ歴史情報
- 第14回 まとめと総括

※事前に予告したうえで、授業で取り扱う内容や順番を変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

各回のテーマに関する参考文献や日本語で読むことができる史料を紹介しますので、復習と自身の学修を深め、学期末課題のレポート研究につなげる手がかりとしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	授業内容を踏まえたレポート・テーマの設定と、必要な情報を適切にまとめるスキル、まとめた情報を踏まえた説得的な意見の表明・主張ができていくかどうかを評価します。
平常点	50%	毎授業で提出する理解度確認小テスト・受講コメントの内容、受講態度(意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度・姿勢等)を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者(病欠など止むを得ない事情を除く)、期末レポートを提出しない者については、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業の冒頭や教材で、前回の受講コメントのいくつか取り上げ、応答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
テキストは使用しません。各回の授業内容に関する教材・資料を配布します。

<参考文献>
小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、2008年
林佳世子・榎屋友子編『記録と表象：史料が語るイスラーム世界』東京大学出版会、2005年
その他の参考文献については、各回の教材・資料などで随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アラビア語(1)A**担当教員： 濱田 聖子**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-OW1-G801

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:2

更新者：XEC508

更新日時：2025-01-11 00:28:4

授業形式

すべての授業について、対面授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

テキストを用いた講義形式です。本講義では正則アラビア語の初級文法を学んでいきます。あくまでも文法の授業であり、会話表現の授業ではないことにご注意ください。ほぼ毎回課題を出す予定です。また、学期末にはテストを行うか、もしくは期末課題を出す予定にしています。

科目目的

中東・西アジアの歴史・社会・文化を学ぶ上で必須であるアラビア語文献の読解を可能とするために、正則アラビア語文法の初級文法を修得することが本講義の目的です。辞書などの道具類を用いて自力で文献を読めるようになることを最終的な目標とするうえで、本授業はそのための第一歩となります。

到達目標

アラビア語の基本名詞文や動詞文の文法を理解できるようになる。

授業計画と内容

- 第01回 ガイダンス、第1章 アラビア文字の書き方と発音／文字のつなげ方と発音記号
- 第02回 第1章 アラビア文字の書き方と発音／文字のつなげ方と発音記号
- 第03回 第2章 限定／限定 第3章 格変化の基本 第4章 基本名詞文
- 第04回 第5章 性 第6章 数
- 第05回 第7章 指示詞
- 第06回 第8章 前置詞
- 第07回 第9章 動詞 laysaと疑問詞 hal, 'a 第10課 形容詞による修飾とイダーファ表現
- 第08回 第11課 名詞のまとめ 第12課 形容詞のまとめ
- 第09回 第13課 数詞
- 第10回 第13課 数詞 第14課 動詞の完了形
- 第11回 第14課 動詞の完了形 第15課 完了形の応用
- 第12回 第16課 未完了形直説形の基礎
- 第13回 第17課 未完了形直説形の応用
- 第14回 まとめ

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなして、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な自学自習の取り組みが求められます。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	40% 前期の授業内容全体についての試験をおこないます。
レポート	0%
平常点	60% 毎回の課題提出(50%) 出席と授業での発言・発表(10%)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価(つまり単位取得)の最低要件は、
①毎回の提出課題はすべて提出すること
②期末テストを受けること
③出席状況
となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト★必ず入手のこと)
八木久美子, 青山弘之, イハープ・アハムド・エバード『大学のアラビア語詳解文法』東京外国語大学出版会 2013年.
※授業で使用するテキストです。必ず入手してください。

(参考文献)
本田孝一・石黒忠昭(編)『パスポート 初級アラビア語辞典』白水社 1997年.
※アルファベット順で引ける初級者用の辞書。見出し語約4200語。

竹田敏之『ニューエクスプレスアラビア語』白水社 2010年.
※文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書。
旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人向き。

オフィスアワー

その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門とする予定の学生は、後期と合わせて履修することが望ましい。
もちろん、単純にアラビア語に興味がある学生も履修できます。
ただし、アラビア語は非常に難解な言語です。文法項目も煩雑なので、講義を欠席することなく、予習復習を欠かさない覚悟と忍耐が必要です。
決して楽な科目ではないことをご承知おきください。

参考URL

備考

科目名： アラビア語(1)B**担当教員： 濱田 聖子**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-OW1-G802

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:2

更新者：XEC508

更新日時：2025-01-11 00:33:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期からの続きの授業となります。
テキストを用いた講義形式です。本講義では正則アラビア語の初級文法を学んでいきます。
あくまでも文法の授業であり、会話表現の授業ではないことにご注意ください。
後期は動詞に関する文法が中心となります。
煩雑な文法を習得する強い意志をもって臨んでください。
ほぼ毎回宿題を出す予定です。
また、学期末にはテストを行うか、もしくは期末課題を出す予定にしています。

科目目的

中東・西アジアの歴史・社会・文化を学ぶ上で必須であるアラビア語文献の読解を可能とするために、正則アラビア語の初級文法を修得することが本講義の目的です。
辞書などの道具類を用いて自力で文献を読めるようになることを最終的な目標とするための文法習得を目指します。

到達目標

アラビア語動詞の諸変化と用法に習熟し、それらを用いたアラビア語文を理解できる。

授業計画と内容

第01回 ガイダンス 第18課 疑問詞・副詞 第19課 未完了形接続形・短形
第02回 第19課 未完了形接続形・短形 第20課 命令形
第03回 第21課 動詞kaana
第04回 第22課 動詞の受動態、分詞、動名詞
第05回 第23課 ハムザ動詞
第06回 第24課 重語根動詞
第07回 第25課 第1語根弱動詞
第08回 第26課 第2語根弱動詞
第09回 第27課 第3語根弱動詞
第10回 第28課 そのほかの動詞 第29課 名詞節
第11回 第30課 接続詞のまとめ
第12回 第31課 関係節
第13回 第32課 分詞・動名詞の応用
第14回 まとめ

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。
テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなして、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な取り組みが求められます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	40% 後期の授業内容全体についての試験をおこないます。
レポート	0%
平常点	60% 毎回の課題提出(50%) 出席と授業での発言・発表(10%)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価(つまり単位取得)の最低要件は、
①毎回の提出課題はすべて提出すること
②期末テストを受けること
③出席状況
となります。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト★必ず入手のこと)
八木久美子, 青山弘之, イハープ・アハムド・エバード『大学のアラビア語詳解文法』東京外国語大学出版会 2013年.
※授業で使用するテキストです。必ず入手してください。

(参考文献)
本田孝一・石黒忠昭(編)『パスポート 初級アラビア語辞典』白水社 1997年.
※アルファベット順で引ける初級者用の辞書。見出し語約4200語。

竹田敏之『ニューエクスプレスアラビア語』白水社 2010年。

※文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書。
旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人向き。

オフィスアワー

その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門とする予定の学生は、後期と合わせて履修することが望ましい。
もちろん、単純にアラビア語に興味がある学生も履修できます。
ただしアラビア語は非常に難解な言語です。文法項目も煩雑なので、講義を欠席することなく、予習復習を欠かさない覚悟と忍耐が必要です。特に後期はアラビア語動詞の諸変化を大量に暗記することになります。
決して楽な科目ではないことをご承知おきください。

前期を履修せずに受講する場合は、前期のシラバスを確認して前期の内容を自分で学習した上で臨むようにしてください。

参考URL

備考

科目名: アラビア語(2)A**担当教員: 松本 隆志**

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G803

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:2

更新者: AC9091

更新日時: 2025-01-16 17:03:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語

授業の概要

本授業は、アラビア語テキストの購読を中心に進めていきます。
 テキスト講読では、文法事項を確認しながら、履修者全員でアラビア語テキストを読み進めます。
 テキストは授業の初回時に配布します。
 履修者は全員、事前にアラビア語の辞書を引く、文法書を確認して、アラビア語テキストを読解していただくことが求められます。
 辞書については初回の授業で指示します。
 予習と復習は必須です。

科目目的

アラビア語辞書を引けるようになること。
 平易な文章に母音符号をふり、音読できるようになること。

到達目標

アラビア語辞書の使用に習熟すること。
 平易な文章の意味を理解しながら、正しい発音でスムーズに音読できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、辞書の紹介
- 第2回 辞書の引き方
- 第3回 テキスト講読1
- 第4回 テキスト講読2
- 第5回 テキスト講読3
- 第6回 テキスト講読4
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読5
- 第9回 テキスト講読6
- 第10回 テキスト講読7
- 第11回 テキスト講読8
- 第12回 テキスト講読9
- 第13回 テキスト講読10
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	40%	初見のアラビア語文章を、辞書等を用いて、適切に読解できているか。
平常点	60%	毎回の授業にきちんと準備して臨んでいるか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

母音記号の付いていないアラビア語の文章を読解し、適切な日本語訳を作成する能力が問われます。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを配布する。以下の辞書を使用する。
 Hans Wehr: A Dictionary of Modern Written Arabic: Fourth Edition.

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名： アラビア語(2)B**担当教員： 松本 隆志**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-OW1-G804

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:2

更新者：AC9091

更新日時：2025-01-16 17:17:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語

授業の概要

本授業は、前期に引き続きアラビア語テキストの購読を中心に進めていきます。
 テキスト講読では、文法事項を確認しながら、履修者全員でアラビア語テキストを読み進めます。
 テキストは授業の初回時に配布します。
 履修者は全員、事前にアラビア語の辞書を引く、文法書を確認して、アラビア語テキストを読解してくることが求められます。
 辞書については初回の授業で指示します。
 予習と復習は必須です。

科目目的

アラビア語辞書を引けるようになること。
 一定程度の質・量のアラビア語文章を自力で読解できるようになること。

到達目標

辞書・文法書を用いて、ある程度複雑なアラビア語文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読1
- 第3回 テキスト講読2
- 第4回 テキスト講読3
- 第5回 テキスト講読4
- 第6回 テキスト講読5
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読6
- 第9回 テキスト講読7
- 第10回 テキスト講読8
- 第11回 テキスト講読9
- 第12回 テキスト講読10
- 第13回 テキスト講読11
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 初見のアラビア語文章を、辞書等を用いて、適切に読解できているか。
平常点	60% 毎回の授業にきちんと準備して臨んでいるか。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを事前に配布する。以下の辞書を使用する。
Hans Wehr : A Dictionary of Modern Written Arabic: Fourth Edition.

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(1)A

担当教員: 伊澤 敦子

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G805

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:2

更新者: AC9479

更新日時: 2024-12-01 08:46:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

サンスクリットは一般に、仏典の言語として知られているが、インドやその周辺地域の文化のルーツを探る上で不可欠な言語である。系統としては、印欧語族に属し、西欧諸言語や古代ペルシャ語などは親族関係にある。本講座では、学生はサンスクリット文法の基礎を学ぶ。特に前期では文字の読み書きから始めて、最終的に名詞・形容詞の格変化になじんでもらう。基本的には文法書に沿って説明するが、必要に応じて補助資料を配布し、補足説明を行う。その際に、文学作品の一節を紹介して実際のサンスクリットの文章に触れてもらう。また、サンスクリット文献における重要な用語の説明を織り交ぜる。

科目目的

サンスクリット文法の習得は、古代インドの文献を読み解くための基礎となるだけでなく、印欧語の元々の様相を探るためのよすがとなる。つまり、英語やドイツ語などの古い形とつながりがあるのである。

到達目標

サンスクリットに特有の連声の規則と、名詞・形容詞の格変化について習得し、簡単な文章を訳すことが出来るようになる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、字母の説明
2. 字母の発音、文字の説明
3. 音論、名詞・形容詞について
4. 名詞:aで終わる語幹
5. aで終わる語幹
6. iで終わる語幹
7. uで終わる語幹
8. iおよびaで終わる語幹
9. rおよび二重母音で終わる語幹
10. 子音で終わる名詞について
11. as, is, usで終わる語幹
12. rで終わる語幹
13. 連声まとめ
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。
その他	10%	次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題(復習)を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用テキスト: サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鎧淳 訳、春秋社、2001、東京
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(1)B

担当教員: 伊澤 敦子

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G806

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:2

更新者: AC9479

更新日時: 2024-12-01 08:56:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

サンスクリットは名詞の格変化や動詞の語尾変化など古い言語形態をもっともよく保持している言語である。単語の1つ1つがパズルのピースのようなもので、それぞれのピースが持っている情報によりぴったり合わせることができると、そこに1つの絵(文)が浮かび上がる。学生はそのパズルを組み立てる為のノウハウを習得する。

科目目的

前期に習得した名詞・形容詞に加え動詞について学ぶことで、サンスクリットの全体像をつかむ。この言語の複雑さに慣れることは、他の言語、例えばギリシャ語やロシア語などの複雑な言語を習得するうえで大いに助けになる。

到達目標

代名詞の格変化、動詞の語尾変化について習得し、これらを織り交ぜた少し複雑な文章を訳すことが出来るようになる。

授業計画と内容

1. 前期の復習、at で終わる語幹、重複語幹
2. vat および mat で終わる語幹、an, man, van で終わる語幹
3. ac で終わる形容詞、特殊性をもつ語幹
4. 比較級と最上級
5. 代名詞
6. 関係代名詞
7. 数詞
8. 第1種活用動詞 第1類
9. 第1種活用動詞 第4, 6, 10類
10. 第2種活用動詞 第2類
11. 第2種活用動詞 第3類
12. 第2種活用動詞 第5, 7類
13. 第2種活用動詞 第8, 9類
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。

レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。
その他	10%	次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題(復習)を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用テキスト: サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鑑淳 訳、春秋社、2001、東京
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(2)A

担当教員: フロレンティナ、エリカ ア
ユニングティアス

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G807

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:2

更新者: AD1271

更新日時: 2025-01-18 23:58:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

初心者向けのインドネシア語のクラス。インドネシア語の基礎的な文法をしっかりと学んでいく。基本的な文の構造などの役割の理解が主な目標である。簡単な自己紹介、時間、曜日、前置詞などを使う表現、そして形容詞や比較表現などを紹介していく。それだけでなく、インドネシアについての理解を深めるために、写真や動画等を用いて文化、生活、宗教などについて適宜紹介していく。言語を通して、インドネシアの暮らしや文化に触れましょう。

授業中に、ペアワーク、グループワークやロールプレイングを行い、宿題や課題も出す。

科目目的

- 1) 文の基本構造を理解する
- 2) 決まり文句を習得する
- 3) 簡単な日常会話ができる
- 4) 既習語彙を用いて、短文を理解できる
- 5) 自習の習慣を身につける

到達目標

1. 自己紹介ができる。
2. 方向を尋ねたり、値段を聞いたりするなど簡単な日常会話ができる。
3. 正しい文法や表現を使い、短い作文を作成することができる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、シラバス確認、インドネシア語の特徴、インドネシアの紹介
2. 挨拶、自己紹介
3. 指示代名詞、名詞文(否定文、疑問文を含む)
4. 人称代名詞、所有格
5. 前置詞、方向、存在表現
6. 数詞、数量の表現
7. 値段
8. 中間テスト
9. 曜日と日付の表現
10. 時間と時刻
11. 形容詞
12. 比較表現
13. インドネシア語の言い回し
14. 総括(期末試験)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習・復習時間を確保する。
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。
授業開始直後に小テストを行う場合がありますので、必ず復習・予習して来ることが。
受講者は、教員の指示に従って復習を行ったうえで、次回の授業に臨むことを期待する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる筆記試験
レポート	0%	
平常点	15%	宿題と小テスト
その他	15%	出席率及び授業への積極的な取り組みを含む授業参加

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

所有しているデバイスを持ち込み、padletやquizizzという教育アプリを活用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書:
著者名/Authors :Florentina Erika
書名/Title :『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』
出版社・出版年/Publisher.Year :KANISIUS 2021
ISBN : 978-9792169287

参考書:
著者名/Authors :川村よし子、フロレンティナ エリカ
書名/Title :『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』
出版社・出版年/Publisher.Year :三修社2017
ISBN-10 : 4384058780
ISBN-13 : 978-4384058789

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(2)B

担当教員: フロレンティナ、エリカ ア
ユニングティアス

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G808

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:2

更新者: AD1271

更新日時: 2025-01-19 00:00:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

春学期に学んだ基礎に加えて、動詞を中心に紹介する。接辞、接尾辞、命令等を学習し、さらに表現を広げていく。聞き取り能力、単語力、表現力を向上させ、実際に簡単な日常会話の中で使用できるようになり、インドネシア語が正しく話せる・書けることはこの授業の目標である。

最後に、インドネシアのこと(文化、食べ物、観光地など)を調べて決められたテーマに基づき、今まで習った単語や表現を使い、簡単なインドネシア語でプレゼンテーションをしてもらおう。言語を通して、インドネシアについての理解を深めましょう。

授業では、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなどを行う。

科目目的

- 1) 文の基本構造を理解する。
- 2) 自分の意思を相手に伝えられる。
- 3) 辞書を用いて、文に相応しい意味を判断できる。
- 4) 相手が言ったことを聞き取れ、返事ができる。
- 5) 自分の意見や考え方を言葉にできる。
- 6) 自習の習慣を身につける。

到達目標

1. 簡単な日常会話ができる。自分の意志を相手に伝えられる。相手の文章が聞き取れ、それに対して答えることができる。また、自分の意見や考え方が述べられる。
2. レストランなどでの予約、飲み物や食べ物の注文。パンフレットを使って、ホテルや旅行のプランを選ぶ、チケットなどを買うなどのようなロールプレイを行い、様々な単語や表現を身につける。
3. 春学期の授業で学習した名詞、数字、時間、簡単な副詞や形容詞などに加えて、基語動詞、ber-動詞、me-動詞、me-kan動詞、受動態や助動詞などを学習し会話の中で使えるようになる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、シラバス確認、春学期の学習内容を復習
2. 動詞1(基語動詞、ber動詞)
3. 動詞2(meN動詞)
4. 助動詞
5. 受動態(1人称と2人称)
6. 受動態(3人称)
7. 中間試験
8. Yang用法(受動態と能動態)
9. 受動態とYang用法の演習
10. 命令文
11. 動詞3(meN~kan)
12. 動詞3の練習、最終課題のテーマの説明
13. レビュー
13. 最終課題のフィードバック&ディスカッション
14. 総括(期末試験)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習・復習時間を確保する。
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。
毎回、小テストまたは作文等宿題の指示を出すので、教員の指示にしたがって、受講後に復習等を行ってください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる総括
レポート	0%	
平常点	15%	宿題や小テスト
その他	15%	出席率及び最終課題

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

所有しているデバイスを持ち込み、padletやquizizzという教育アプリを活用する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書:
著者名/Authors :Florentina Erika
書名/Title :『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』
出版社・出版年/Publisher.Year :KANISIUS 2021
ISBN : 978-9792169287

推薦参考書:
著者名/Authors :川村よし子、フロレンティナ エリカ
書名/Title :『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』
出版社・出版年/Publisher.Year :三修社2017
ISBN-10 : 4384058780
ISBN-13 : 978-4384058789

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考
